

## 若手アカデミー会議（第24期・第9回）議事要旨

令和二年1月24日（金）10:00～13:00

豊泉荘（別府市青山町5-73）楓の間

現地出席：

井藤彰、岩崎、遠藤求、遠藤良輔、加藤、川口、大矢根、岸村、小森、高瀬、高山、中西、西嶋、松中、森、安田、新福、小野、田中、寺田、林

Skype 出席：

小堀、實藤、住井、高槻、埴淵、隠岐、田井

### 【議題】

（一）幹事団及び各分科会からの報告等

#### ● 幹事団からの報告

##### ・筑波会議について

新福副代表より、2019年10月に開催された筑波会議に関する報告が資料を用いてなされた。同会議のテーマは若手研究者であったが、その観点から Global Young Academy のメンバーと共に若手アカデミーとして会議に大きく貢献を行った旨、また、2年後に開催予定の第二回会議にも参画予定であり、西嶋会員がとりまとめを行う旨について報告がなされた。

##### ・日本学術会議総会での発表について

岸村代表より、2019年10月に開催された日本学術会議総会において若手アカデミーの活動紹介を行ったことについて報告があった。また AI に関する特別企画に松中会員・田中会員・馬奈木会員・岸村代表が参加したこと、その内容が学術の動向に掲載予定であることについて報告があった。合わせて、若手アカデミー紹介用のプレゼンテーション資料が利用可能であることに関する情報共有があった。

##### ・NHK「日曜討論」出演について

岸村代表より、2019年12月に放映された NHK「日曜討論」に若手アカデミー代表として出演した旨について報告があった。

##### ・GRIPS シンポジウムへの参加について

岸村代表より、2019年12月に開催された GRIPS シンポジウム「我が国科学技術失速の原因と復活の処方箋」に参加・議論したことについて資料を用いて報告があった。また同シンポジウムにてモデレーターを務めた田中会員から補足説明があり、全文書き起こしを今

後共有する旨が報告された。同シンポジウムで議論された内容は重要な課題であり、若手アカデミーでも引き続き議論していくことが重要であることが共有された。

<その他>

・新メンバー加入について

岸村代表より、新宅博文会員、木村草太会員がそれぞれ若手アカデミーに加入した旨が報告された。また、同様に若手アカデミーに加入した田中和哉会員、寺田佐恵子会員よりそれぞれ自己紹介があった。

・竹本大臣訪問

新福副代表より、2019年12月に竹本内閣府特命担当大臣を訪問し、若手科学者支援の観点から意見交換を行ったことについて資料を用いて報告があった。また、現在策定中の「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」にその内容が反映される見込みであることが報告された。小野会員より、意見交換の内容が科学新聞に掲載され、所属大学からの意見照会につながった旨について報告があった。川口会員より、新たな若手科学者向けの賞の設立が検討されており、どのような賞が必要かアイデアを求めたい旨の依頼があった。

・今井政務官表敬訪問

新福副代表より、2019年12月に今井内閣府大臣政務官を訪問し、若手科学者支援の観点から意見交換を行った旨、資料を用いて報告があった。また岩崎幹事から、その後2020年1月に東京大学への訪問を受けた旨、引き続き交流・連携を深めていきたい旨について報告があった。

・日学の外部評価について

岸村代表より、日本学術会議の外部評価に向けた意見の照会があり、電磁的ツールの積極的な活用を可能にするためのルール整備の必要性、分科会間の活動状況の共有の必要性、活動資金や事務体制に関して弾力的な運用を可能にする必要性、活発な分科会を支援することが可能な枠組みの必要性、個々の会員の活動の活性度を評価する仕組みの必要性について、それぞれ意見が交わされた。

・2021年 Global Young Academy 総会開催について

新福副代表より、2021年の Global Young Academy 総会を日本学術財団と連携して日本で開催する予定である旨、資料を用いて報告がなされた。また現在の Global Young Academy 会員は日本からは5名であるが住井会員の卒業によって今後4名となる旨、2019年の総会はドイツで開催され、2020年の総会はインドで開催予定だが政情不安がある旨、それぞれ情

報共有がなされた。最後に、2021年は日本学術会議の期が改まるため、次期若手アカデミーの活動としても位置付けていく必要がある旨について報告があった。

- 各分科会からの報告

- ・若手による学術の未来検討分科会

川口分科会委員長より、今後の分科会活動の見通しについて報告があった。

- ・若手科学者ネットワーク分科会

岩崎分科会委員長より、「若手科学者とメディア」あるいは「コンテンツとしての若手科学者」をテーマとしたシンポジウムを24期中に開催することに向けて、検討を進めている旨の報告があり、協力が求められた。また、同シンポジウム登壇者の人選について意見が交わされた。加えて、若手科学者ネットワークメーリングリストを活用したい旨について報告がなされた。

- ・イノベーションに向けた社会連携分科会

高山分科会委員長より、分科会活動の概略について報告があった。遠藤良輔会員より、発出予定の提言に関する準備状況について報告があった。また、小野会員より、2020年7月に豊橋市で開催予定の大学と地域住民をテーマとした公開ワークショップ「豊橋・愛知2050—30年後の地域像と大学像—」について報告があり、これに関連して、託児所の設置が可能か事務局と検討したい旨が述べられた。

- ・国際分科会

新福分科会委員長より、前日に開催された公開ワークショップ「大学の国際化による地方活性化促進：地域拠点としての大学の在り方を考える」を受けた議論を行い、学術の動向で報告する予定である旨が報告された。また安田会員・岸村代表より、2019年11月に開催されたWorld Science Forumにおいて、G20大阪サミットや筑波会議における議論を引き継ぐ形でSDGsのコンフリクトや海洋プラスチック問題に関するワークショップを開催し、議論を行った旨が報告された。加えて、採択された2019ブダペスト宣言についても紹介があった。最後に、2021年のWorld Science Forumは南アフリカで開催予定であり、JSTとも連携してテーマを提案していきたい旨の報告があった。最後に西嶋会員より、日本・スウェーデン間の共同研究促進プログラムMIRAIワークショップに関連して、スウェーデン若手アカデミーとの交流を行った旨の報告があった。スウェーデン若手アカデミーは2011年に創立され会員は35人であること、代表は専属・常勤であること、2名の常勤事務員がいること、国家公務員ではないこと、日本学術会議若手アカデミーと共通したテーマを議論していることについて紹介があり、学術の動向にまとめる予定である旨の報告があった。

(二) 科学者委員会同分科会等での取り組みについて

● 出席者からの報告

・科学者委員＋軍事的安全保障研究声明に関するフォローアップ分科会

岸村代表より、科学者の定義等について議論が交わされている旨報告があった。

・学協会連携分科会

川口会員より、協力学術研究団体として登録されている 2,000 程度の学協会に関連して、制度の見直しを行っている旨の報告があった。特に、人数規模・士業の会員・機関紙の発行主体の扱い、協力学術研究団体の位置付けについて議論があることが紹介された。また埴淵会員らによる分析結果が紹介され、会員数が 2,000 名以下の学会は縮小傾向、2000 名以上の学会は拡大傾向にあり、スケールメリットがあるとする考察が紹介された。学会会長および事務局向けのアンケートを実施中であり、心当たりがある会員は回答してほしい旨について依頼がなされた。

・男女共同参画分科会（アンケート検討小分科会）

新福副代表より、男女共同参画分科会によるアンケートがなされている旨について報告があり、回答率の向上が課題である旨が共有された。

・学術体制分科会

岩崎幹事より、2019 年 11 月に発出された「第 6 期科学技術基本計画に向けての提言」に関する報告があった。特に、基礎研究の重要性、学術の多様性・総合性、バランスのとれた投資の 3 点について強調していること、また特に若手・多様性に関する内容として、博士課程学生の経済的支援、アカデミックキャリアパスの確立と多様化、科学者コミュニティにおける多様性の実現、科学技術政策への科学者コミュニティの参加、の 4 点を重要な内容として挙げていることについて紹介があった。

・研究計画・研究資金分科会

大矢根会員より、マスタープラン 2020・重点大型研究計画に関する審議の進行状況について資料を用いて説明があった。また関連する提言が近日中に発出予定であることについて報告があった。

・学術と教育分科会

西嶋会員より、活動状況に関する報告があった。

・研究評価分科会

松中会員より、今後アンケート結果を踏まえた提言を行う予定である旨、報告がなされた。

(三) その他 (今後の活動に関する全体討論など)

● 24期若手アカデミーとしての今後の活動について

岩崎幹事より、日本版 AAAS 設立の動向があり、興味がある会員は連絡を欲しい旨について依頼があった。また、日本学術振興会特別研究員・海外特別研究員制度について、特に看護・介護による研究活動の中断に関する制度改善について若手アカデミーとして要望することに関して、資料を用いた提案があり、審議の結果承認された。この議論の中で、寺田会員より、同制度について年齢制限が撤廃されたことが良かったこと、同様に制度を広げることで助かる人がいるのではないかとのコメントがなされた。また JSPS にもメリットがある形で進めることの重要性が指摘された。

新福副代表より、日本学術協力財団との協力のもと、Global Young Academy 総会と関連させる形でイベントや研究事業を行うこと、事務員を雇用することについて議論が提起されるとともに、2020年5月に当事者研究に関するシチズンサイエンスのイベントを開催予定である旨が紹介された。岩崎幹事・小野会員より、Global Young Academy 総会で若手アカデミーメンバーを紹介するため、また、子供たちに研究者の魅力を伝えるために、若手アカデミーメンバーの研究紹介動画を作ることについての提案があった。

岸村代表より、若手アカデミー全体会議を4月あるいは5月に一度、9月に一度、それぞれ開催したい旨が述べられた。

新福副代表より、外務省ほか各省庁の行政官と連携したい旨の提案がなされ、岩崎幹事より情報共有がなされた。また田中会員より、GRIPS 官僚向けプログラム (外交アカデミー) や SciREX の科学技術勉強会を通じた紹介が可能である旨が紹介された。

加藤会員より、弘前大学でのシンポジウムを改めて評価する旨、地方大学でのイベントを積極的に開催したい旨が述べられた。

林会員より、AI やそれを取りまく社会に関するシンポジウムを積極的に開催したい旨が述べられた。

井藤彰会員より、次期若手アカデミーメンバーとなりうる連携会員推薦の状況について質問がなされ、現状や制度に関する状況共有がなされた。

以上